

はじめに

BladeSymphony SPは、オプション品である「BladeSymphony SP用管理サーバ」の有無により、セットアップ手順が異なります。お客様がお買い求めになられたシステム構成を下記<A><C>の3パターンから選択してください。以降、選択いただいた<A><C>マークの記載がある項目をセットアップしてください。

システム構成パターン	システム構成内容	システム構成図
A	BladeSymphony SP (本体)と同時に、オプション品の「 BladeSymphony SP用管理サーバHA8000 」をご購入いただいた場合	
B	BladeSymphony SP (本体)と同時に、オプション品の「 管理サーバブレード 」をご購入いただいた場合	
C	BladeSymphony SP (本体)のみご購入頂いた場合 ※管理用PCまたはサーバが不要、またはお客様で管理用PCまたはサーバをご準備される場合	

- セットアップの手順は下記の順番を必ず守ってください。手順を間違えますと、正しくセットアップできません。
- セットアップ作業開始前に製品添付のユーザーズガイド CDに格納されている「BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド」内の「安全にお使いいただくために」および「1章 お使いになる前に」を必ずお読みください。
- より詳細な内容については製品添付のユーザーズガイド CDに格納されている「BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド」および「BladeSymphony BS320 ソフトウェアガイド」を参照ください。
- 本セットアップガイドは、Windowsインストール済のHDDレスサーバブレードをご購入されたお客様を対象としています。お客様ご自身で各HDDレスサーバブレードにWindowsをインストールされる場合は、製品添付のユーザーズガイドCDに格納されている「BladeSymphony BS320 ソフトウェアガイド」を参照し、インストールしてください。
- 本セットアップガイドに記載の手順および設定値と、本セットアップガイド以外の製品添付のマニュアルの手順および設定値が異なっている場合には、本セットアップガイドの内容に従ってセットアップを行ってください。

用語の説明

管理LAN：管理サーバと、マネジメントモジュール、ブレード管理コントローラ(BMC)、スイッチモジュール、ストレージおよびUPS等をつなぎ、BladeSymphony SPの管理を行うLANです。お客様の業務用のLANとは別に設置されます。

JP1/SC/BSM：JP1/ServerConductor/Blade Server Managerの略です。

JP1/SC/Agent：JP1/ServerConductor/Agentの略です。

HDDレスサーバブレード：お客様の業務が稼働するサーバブレードです。

管理サーバ(ブレード)：JP1/SC/BSMが稼働しBladeSymphony SPを管理します。

BMC：サーバブレードを管理するコントローラです。

Windows Server 2008 Standard/Enterprise：Microsoft® Windows Server® 2008 Standard/Enterprise 日本語版の略です。

Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V：Microsoft® Windows Server® 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V™ 日本語版の略です。

Windows Server 2003 R2 Standard/Enterprise Edition：Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard/Enterprise Edition 日本語版の略です。

Windows Server 2003, Standard /Enterprise Edition：Microsoft® Windows Server® 2003, Standard/Enterprise Edition 日本語版の略です。

Windows Vista Business /Enterprise/Ultimate：Microsoft® Windows Vista® Business /Enterprise/Ultimate 日本語版の略です。

Windows XP Professional /Home Edition：Microsoft® Windows® XP Professional /Home Edition 日本語版の略です。

Windows 2000 Professional：Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版の略です。

Windows 2000 Server/Advanced Server：Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Operating System 日本語版です。

お客様にてご準備いただくもの

お客様にて下記機器をあらかじめご準備ください。

システム構成パターン	項目	員数	備考
A	なし		
B C	PCまたはサーバ	1台	リモートコンソール用として使用します。次のリモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件を満たすPCまたはサーバをご準備ください。 また、システム構成パターン<C>の場合は、管理用PCまたはサーバと共用できます。この場合は、く管理用PCまたはサーバの動作条件も満たしてください。
	LANケーブル	1本	カテゴリ-5 以上の規格に対応したLANケーブルをご準備ください。

くリモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件

項目	動作条件
サポートOS	サーバ Windows Server 2008 Standard/Enterprise (32bit版) Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V (32bit版) Windows Server 2003 R2, Standard/Enterprise Edition (32bit版) Windows Server 2003, Standard/Enterprise Edition (32bit版) PC Windows Vista Business (32bit版) Windows XP Professional/Home Edition (32bit版) Windows 2000 Professional
CPU	動作クロック1GHz 以上
メモリ	256MB 以上
表示解像度	1,024 x 768 ドット以上
ネットワーク	100Base-TX 以上
CD-ROM/DVD-ROMドライブ	PCまたはサーバ内蔵のCD-ROM/DVD-ROM または、USB 接続のCD-ROM/DVD-ROM USB 接続のCD-ROM/DVD-ROM はUSB2.0 準拠のドライブを推奨

く管理用PCまたはサーバの動作条件

項目	動作条件
サポートOS	サーバ Windows Server 2008 Standard/Enterprise (32bit版および64bit版) *1 Windows Server 2008 Standard/Enterprise without Hyper-V (32bit版および64bit版) *1 Windows Server 2003 Standard/Enterprise Edition (32bit版) Windows Server 2003 R2 Standard/Enterprise Edition (32bit版) Windows 2000 Server/Advanced Server SP3以降 PC Windows Vista Business/Enterprise/Ultimate*2 (32bit版) Windows XP Professional/Home Edition*3 (32bit版) Windows 2000 Professional *3
CPU	Pentium4 1GHz (2GHz以上推奨)
メモリ	512MB 以上
ハードディスク	1GB以上の空き容量
ネットワーク	管理LAN (1000Base-T/100Base-TX/10Base-T)に接続できること
CD-ROM/DVD-ROMドライブ	PCまたはサーバ内蔵のCD-ROM/DVD-ROM または、USB 接続のCD-ROM/DVD-ROM

*1 システム構成パターン<A> では、Windows Server 2008 Standardの32bit版のみ使用可能です。
*2 コンソールサーバと、リモートコントロールビューアのみ利用可能です。
*3 JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plusはインストールできません。
JP1/ServerConductor/Blade Server Manager Plusをご使用になる場合には、サーバOSをご準備ください。
JP1/SC/BSMは使用可能です。

1 開梱および設置

BladeSymphony SPの開梱および設置時の注意

⚠ 温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると発煙、発火や感電の原因になります。使用する場所で、数時間そのまま放置してからご使用ください。

⚠ 重量物の扱いについて

ラックキャビネットや周辺機器などの重量物を移動したり、持ち上げたりする場合は、無理をせず器具を使用したり、2人以上で注意して取り扱ってください。腕や腰を痛めたり、ラックキャビネットや周辺機器の転倒や故障の原因となります。

⚠ ラックキャビネットドアの開閉について

- ・フロントドア・リアドアを閉めるときに指をはさまないようにご注意ください。けがををするおそれがあります。
- ・ラックキャビネット内のケーブルをはさまないようにご注意ください。ケーブルの断線により、感電や装置の故障の原因となります。
- ・フロントドア・リアドアの開閉は静かに行ってください。強く行くと装置の故障の原因になります。
- ・ラックキャビネット内に搭載された装置を引き出した状態のままドアを閉めないでください。ラックキャビネットや装置の故障の原因となりますので、収納されていることをご確認のうえ、ドアを閉めてください。

⚠ 設置環境について

傾いたところや狭い場所など不安定な場所には置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがををするおそれがあります。

BladeSymphony SP ラック搭載レイアウト

ラックキャビネット内部(前面)

38Uラック搭載レイアウト (UPS有 構成)



38Uラック搭載レイアウト (UPS無 構成)



16Uラック搭載レイアウト



図中「★」のついている機器はオプションです。

BladeSymphony SPの開梱および設置作業手順

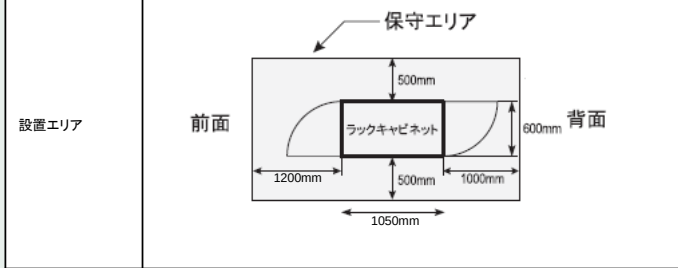
① 同梱品の確認

- ・BladeSymphony SPに付属のダンボール箱を開梱し、「同梱品チェックリスト」ですべての添付品がそろっていること、各部品に損傷がないことをご確認ください。部品の不足や、何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡ください。

② BladeSymphony SPの設置

- ・BladeSymphony SPの設置環境条件を次に示します。

項目	許容範囲
温度	5 ~ 35 °C [非動作時: 0 ~ 40 °C]
相対湿度	20 ~ 80% [非動作時: 10 ~ 90%] (結露のないこと)
振動	最大2.45m/s² [非動作時: 9.80m/s²]
埃	一般事務所程度



2 リモートコンソール用PCまたはサーバのセットアップ

リモートコンソール用PCのセットアップ作業手順

① リモートコンソール用PCまたはサーバのIPアドレス設定

お客様準備のリモートコンソール用PCまたはサーバにIPアドレスを設定します。IPアドレスは、ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理LANと同一セグメントアドレスを使用してください。

... 補足 ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理LANのIPアドレスは本セットアップガイドシートNo.5に記載されている「IPアドレス初期設定値一覧」を参照ください。

② LANケーブルの接続

リモートコンソール用PCまたはサーバと、ブレードサーバシステムの上の方にある「スイッチングHUB」のポート番号19を、お客様準備のLANケーブルで接続します。

1. BladeSymphony SPのスイッチングHUBとLANケーブルの接続



LANケーブル(お客様準備)をポート番号19に接続します。

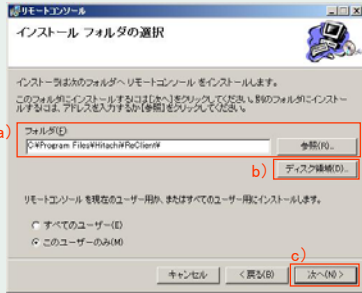
2. リモートコンソール用PCまたはサーバとLANケーブル接続

接続したLANケーブルをラックキャビネットの外に出し、リモートコンソール用PCまたはサーバと接続します。

③ リモートコンソールアプリケーションのインストール

以下で説明するインストール作業は必ず管理者権限のあるユーザで行ってください。

1. リモートコンソール用PCまたはサーバのCD-ROMドライブに、製品添付のリモートコンソールアプリケーションCDをセットします。リモートコンソールアプリケーションCD 内の「reclent_JP」フォルダを開き、「Setup.exe」をダブルクリックします。
2. リモートコンソールのインストーラが起動し、「リモートコンソール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。[キャンセル]をクリックした場合は、下記インストールを中止する場合>を参照ください。
3. 右の画面が表示されます。



- a) リモートコンソールアプリケーションのインストールフォルダを選択する場合は、選択フォルダ欄に直接入力、または[参照]をクリックします。[参照]をクリックすると「**フォルダの参照**」の画面が表示されます。インストール先フォルダを選択し[OK]をクリックします。
 - b) ディスクの容量を確認する場合は[ディスク領域]をクリックします。[ディスク領域]をクリックすると「**リモートコンソールディスク容量**」の画面が表示されます。確認できたら[OK]をクリックして画面を閉じます。
 - c) 上記の設定が完了したら[次へ]をクリックします。
4. 「インストール確認」の画面が表示されますので、インストールを開始する場合は[次へ]をクリックし、インストールを開始してください。[キャンセル]をクリックした場合は「インストールを中止する場合」をご覧ください。
 5. 「リモートコンソールをインストールしています」の画面が表示され、インストールが開始されます。[キャンセル]をクリックした場合はインストールを中止する場合>をご覧ください。

6.「インストールが完了しました。」の画面が表示されましたらインストールは終了です。[閉じる]をクリックしてインストーラを終了してください。

7.インストールが終了すると、デスクトップ上にショートカットアイコンが表示されます。



＜インストールを中止する場合＞

補足

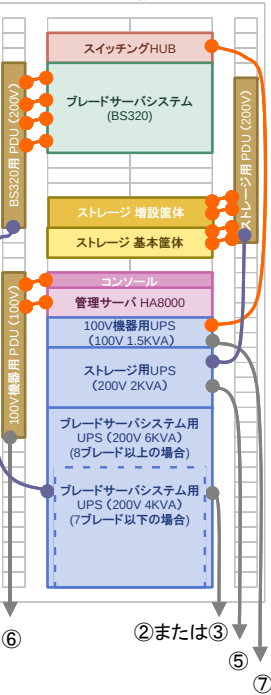
インストールを中止する場合は、各画面の[キャンセル]または[×]をクリックします。[キャンセル]または[×]をクリックすると「インストールは完了していません。終了してもよろしいですか?」のメッセージが表示されます。インストールを中止する場合は[はい]、インストールを続行する場合は[いいえ]をクリックします。[はい] をクリックすると「インストールは中断されました」の画面が表示されます。[閉じる] または[×] をクリックしてインストーラを終了してください。

電源の入れ方

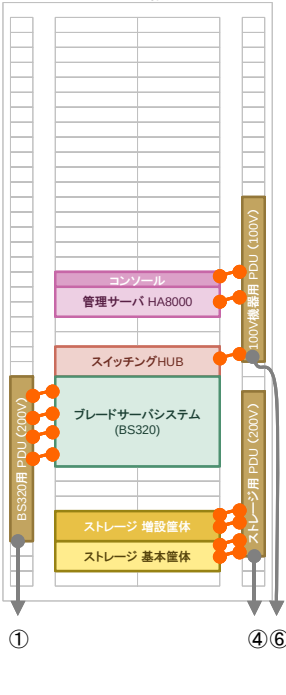
BladeSymphony SPの各機器で使用する電源ケーブルを以下に示します。オプションの構成により使用するコンセント形状が異なります。

ケーブル番号	ケーブル用途	コンセント形式 容量	形状
①	ブレードサーバシステム(BS320)用 コンセントボックス(PDU)電源ケーブル	接地形2極引掛形 250V/30A	(NEMA L6-30P)
②	ブレードサーバシステム(BS320)用 UPS電源ケーブル	6kVA入力端子台	(端子サイズM8)
③	ブレードサーバシステム(BS320)用 UPS電源ケーブル	接地形2極引掛形 250V/30A	(NEMA L6-30P)
④	ストレージ用コンセントボックス(PDU) 電源ケーブル	接地形2極引掛形 250V/20A	(NEMA-L6-20P)
⑤	ストレージ用UPS 電源ケーブル	接地形2極引掛形 250V/20A	(NEMA-L6-20P)
⑥	100V機器用コンセントボックス(PDU) 電源ケーブル ・スイッチングHUB ・管理サーバHA8000およびコンソール	接地形2極差込 125V/10A	(JIS-C-8303)
⑦	100V機器用 UPS電源ケーブル	接地形2極引掛形 125V/20A	(NEMA L5-20P)

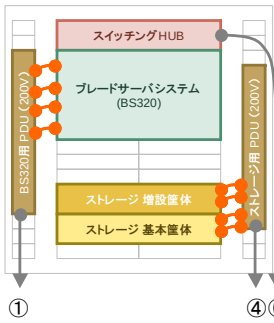
38Uラック電源レイアウト
(UPS有 構成)



38Uラック電源レイアウト
(UPS無 構成)



16Uラック電源レイアウト



電源ケーブル接続時の注意

タコ足配線について

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。ケーブルやコンセントが過熱し、火災の原因になるとともに、電力使用量オーバーでブレーカーが落ち、ほかの機器にも影響をおよぼします。

電源ケーブルを抜いた場合について

システム装置またはコンセントから電源ケーブルを抜いた場合、必ず10 秒以上経過してから再接続してください。これを行わないと、システム装置が起動しないことがあります。

電源操作について

電源操作は決められた手順に従って行ってください。決められた手順に従わずに電源を入れたり切ったりすると、システム装置の故障の原因になります。

BladeSymphony SPの電源操作手順

① 電源の投入

1. ストレージ背面にある、ACスイッチをすべてONにします。すでにONになっている場合は次に進んでください



2. ラックキャビネット背面にあるコンセントボックスのブレーカを以下の順番に入またはONにしてください。

- ①100V 機器用コンセントボックス
(ケーブル接続されている全てのブレーカ)
- ②ストレージ用コンセントボックス(200V)
(ケーブル接続されている全てのブレーカ)



3. UPSが搭載されている場合は、以下の順番にUPSの前面にある「Testボタン」をブザーが鳴るまで (2秒) 押し続けてください。

- ①100V機器用UPS
- ②ストレージ用UPS



4.ストレージの電源が入ると、ストレージの前面にあるPOWERランプ、ERRORランプ、RAID ERRORランプ、IDENTIFYランプがすべて点灯し、その後、ERRORランプが数秒点滅して消灯し、残りのランプはスタートアップ完了まで点灯し続けます。スタートアップが正常に完了すると前面のPOWERランプのみが点灯します。



5. ラックキャビネット背面にあるブレードサーバシステム用コンセントボックスのブレーカをONにしてください。
(ケーブルが接続されている全てのブレーカについて実施してください)



6. UPSが搭載されている場合は、ブレードサーバシステム用UPSの前面にある「Testボタン」をブザーが鳴るまで (2秒) 押し続けてください。

POWERランプスイッチ



7. システム構成パターン<A>の場合、管理・バックアップサーバHA8000の前面にあるPOWERランプスイッチを押して電源を入れてください。



8. 数分後、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュール(前面から見て左側)のPWR/ERR ランプが、オレンジ色の点滅から点灯に変わったことを確認します。



9. お客様準備のリモートコンソール用PCまたはサーバを使用する場合には、リモートコンソール用PCまたはサーバの電源を入れてください。

ブレードサーバシステムの初期設定

ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の設定操作は、システム構成パターン<A>の場合・・・管理・バックアップサーバHA8000システム構成パターン<C>の場合・・・リモートコンソール用PCまたはサーバより行います。上記のPCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動し、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールにログインして各種設定を行います。このため、事前にInternet Explorerの設定を確認してください。設定が適切でない場合、マネジメントモジュールにログインできません。PCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動し、「ツール」-「インターネットオプション」をクリックします。以下の設定を確認してください。

- ポップアップの禁止設定を解除してください。
※Internet Explorerの設定以外(ブラウザ拡張ツールバー等)のプログラムでも、ポップアップの禁止設定を解除してください。
- Java スクリプトを有効にしてください。
- ブラウザはInternet Explorer 6以降をご使用ください。OSの条件は、「はじめに」の「リモートコンソール用PCまたはサーバの動作条件」と同じです。

ブレードサーバシステムの初期設定手順

① マネジメントモジュールへのログイン

- PCまたはサーバ上でInternet Explorerを起動します。
- アドレス欄に「http://< マネジメントモジュールのIP アドレス>」を入力し、[Enter]を押します。

(例)マネジメントモジュールのIPアドレスが192.168.0.1の場合



補足 マネジメントモジュールのIP アドレスはシートNo.5の「IPアドレス初期設定値一覧」をご参照ください。

3.接続に成功するとログイン画面が表示されます。何も入力せずに[ログイン]をクリックします。



補足 工場出荷時は、ユーザアカウントとパスワードは何も設定されていません。

4. ログインに接続に成功するとマネジメントモジュールのメイン画面が表示されます。



② ユーザアカウントの登録

マネジメントモジュールにログインするためのユーザアカウントを登録します。

1.メニューから[ユーザアカウント]をクリックします。下記画面が表示されますので、[ユーザアカウント]欄 1行目ラジオボタンをクリックし、[編集]をクリックします。



2.下記画面が表示されます。次の表を参考に必要事項を入力し、[適用]をクリックします。



項目	説明
ユーザアカウント	ユーザアカウント名称。半角英数字 (最大15 文字)
パスワード	パスワード。半角英数字 (最大15 文字)
パスワード(再入力)	パスワードの再入力。半角英数字 (最大15 文字)
ユーザ権限	ユーザアカウント権限。Administrator,Operator から選択
状態	ユーザアカウントの有効/無効。有効、無効から選択
介入許可パーティション	パーティション(サーバブレード)介入可否 チェック有: マネジメントモジュールから当該サーバブレードの操作・設定が可能 チェック無: 当該サーバブレードの操作・設定が不可
このアカウントを削除する	編集中のユーザを削除する場合チェックをつけます。
[適用] ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル] ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
[戻る] ボタン	ユーザアカウント設定一覧画面に戻ります。

3. 設定内容の確認画面が表示されます。設定内容に問題がない場合は、[設定 反映] ボタンを押してください。保存処理が行われ、ユーザアカウント設定画面に戻ります。設定値に問題がある場合は、問題がある項目が赤く表示されますので、該当箇所を修正してください。保存を中止したい場合は[キャンセル]ボタンを押してください。

③ 管理LANの設定内容の確認

ブレードサーバシステム(マネジメントモジュール)の管理ネットワークの設定内容確認や設定変更する場合は、マネジメントモジュールにログイン後、下記「ネットワーク設定」画面にて行います。

1.メニューから[ネットワーク]をクリックします。「ネットワーク設定」画面が表示されます。



項目	説明
[最新の状態に更新]ボタン	設定情報の再読み込み
マネジメントモジュールIPアドレス	マネジメントモジュールのIPアドレス
マネジメントモジュールサブネットマスク	マネジメントモジュールのサブネットマスク
マネジメントモジュールデフォルトゲートウェイ	マネジメントモジュールのデフォルトゲートウェイ
サーバブレード 0～9 IPアドレス	サーバブレード0～9の管理用IP アドレス 各ブレードサーバへのリモートコンソール接続用IPアドレスとして、5章①「サーバブレードへのリモートコンソール接続」で使用します。
[適用]ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル] ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
一括入力開始 IP アドレス	サーバブレードの管理用IP アドレスを一括入力することができます。そのための最初の管理用IPアドレスを入力します。
[一括入力] ボタン	サーバブレードの管理用IP アドレスが未設定の場合のみ有効です。[一括入力開始IP アドレス]欄に管理用IP アドレスを入力した状態で[一括入力]ボタンを押すと、サーバブレードが搭載されている(サーバブレード0～9 IPアドレス)欄に連続したアドレスを自動入力します。IP アドレスの妥当性のチェックは行いませんので、有効な IP アドレスが入力されたかを確認してください。

2.設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用]ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定 反映]ボタンをクリックします。キャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

④ Blade Server Manager連携の設定内容の確認

マネジメントモジュールは、ブレードサーバシステムの各サーバブレードや各モジュールの稼働状態および障害情報を収集し、管理用PCまたはサーバにインストールしたJP1/SC/BSM(7章参照)に通知します。そこで、あらかじめマネジメントモジュールにJP1/SC/BSMと通信するための設定をします。本設定内容の確認や設定変更する場合は、マネジメントモジュールにログイン後、下記「Blade Server Manager連携設定」画面にて行います。

1. メニューから[Blade Server Manager連携] をクリックします。「Blade Server Manager連携設定」画面が表示されます。



項目	説明
[最新の状態に更新]ボタン	設定情報の再読み込み
サーバ名(1 ～ 4)	管理用PCまたはサーバのニックネーム 半角英数字、記号(最大15 文字)
IP アドレス(1 ～ 4)	管理用PCまたはサーバのIPアドレス
ポート番号(1 ～ 4)	アラートで使用するポート番号(デフォルト:20079) 半角数字(最大5 文字)
[適用]ボタン	設定内容確認画面へ遷移します。ただし、設定内容に不備がある場合は、不備のある項目が赤で表示され設定内容確認画面には遷移しません。
[キャンセル]ボタン	全入力項目を直前の設定値に戻します。
[削除する]チェックボックス	設定を削除する場合にチェックをつけます。設定の削除は設定番号の大きい設定から削除するようにしてください。
[推奨値入力]ボタン	Blade Server Manager連携設定の推奨値をフォームに入力します。デフォルトは下記の通りです。 ・サーバ名:BSM.1～4 ・ポート番号:20079

… 補足 設定画面の「管理サーバ1」に対する設定のみ行ってください。

2.設定変更する場合は、各項目に入力し、[適用]ボタンをクリックします。設定確認画面が表示されますので、設定値に問題がなければ[設定反映]ボタンをクリックします。 キャンセルする場合は、[キャンセル]ボタンをクリックしてください。

⑤ マネジメントモジュールからのログアウト

- 1.メイン画面右上の[ログアウト]をクリックします。
2.[はい]をクリックします。

サーバブレードのWindowsセットアップ手順

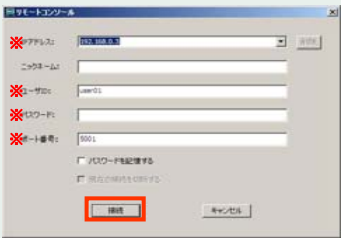
① サーバブレードへのリモートコンソール接続

1. PCまたはサーバのデスクトップ上にある「リモートコンソール」ショートカットアイコン(2章③参照)をダブルクリックします。
2.右の「リモートコンソール」画面が表示されます。リモートコンソール接続先の情報を入力し[接続] ボタンをクリックします。

※の項目は入力必須
工場出荷時のデフォルト値は下記の通り

IPアドレス :下記表参照
ユーザID :user01
パスワード:pass01
ポート番号 :5001

… 補足 セキュリティの観点から、出荷時のパスワードからの変更をお勧め致します。変更方法は、マネジメントモジュールの「サーバブレード」のKVM設定画面から行ってください。詳細は「BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド」を参照ください。



リモートコンソール接続先サーバブレード	IPアドレス (リモートコンソール接続用 IPアドレス)
サーバブレード 0	サーバブレード 0 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 1	サーバブレード 1 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 2	サーバブレード 2 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 3	サーバブレード 3 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 4	サーバブレード 4 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 5	サーバブレード 5 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 6	サーバブレード 6 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 7	サーバブレード 7 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 8	サーバブレード 8 管理用IP アドレス *1
サーバブレード 9	サーバブレード 9 管理用IP アドレス *1

*1 4章③「管理LANの設定内容の確認」を参照

② サーバブレードの電源投入

- 1.[[Alt]+[G]]キーを同時に押します。リモートコンソールツールバーが表示されます。[電源▼]をクリックし、[電源オン]をクリックします。[はい]をクリックすると、サーバブレードが起動します。



2. リモートコンソールツールバーの[リモート開始]をクリックします。ツールバーが消え、サーバブレードのコンソール操作(ディスプレイ・マウス・キーボード操作)ができます。

… 補足 リモートコンソールツールバーの操作方法
「[[Alt]+[G]]」キーを押すとツールバーの表示/非表示が切り替えられます。ツールバーが消えているときは、サーバブレードのコンソール操作ができます。ツールバーが表示されているときは、サーバブレードのコンソール操作ができません。本ガイドで使用するツールバーの各ボタンについて説明します。これ以外については、製品添付の「リモートコンソールアプリケーション ユーザーズガイド」を参照してください。

項目	説明	ショートカットキー
電源オン	リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を入れます。	
強制電源オフ	リモートコンソール ログイン中のサーバブレードの電源を強制OFFします。	
リセット	リモートコンソール ログイン中のサーバブレードのリセットします。	
NMI	障害時以外は使用しないでください。接続されているサーバブレードに対してNMIを実行し、強制的にメモリダンプを取得します。	
C+A+D	リモート接続中のサーバブレード上で、[Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを1回押し、た状態になります。	[Alt]+[L]
接続先切替	他のサーバブレードにリモートコンソールを切り替えます。	[Alt]+[D]
リモート開始	サーバブレードのリモート操作を開始します。	[Alt]+[G]
リモート終了	リモートコンソールアプリケーションを終了します。	[Alt]+[E]

③ 各サーバブレードのWindowsセットアップ

各サーバブレードのリモートコンソールにログインし、Windowsセットアップ作業を行ってください。

Windows Server 2008 編

■ HDDレスサーバブレード/管理サーバブレード(オプション品) 共通

… 補足 これ以降、操作を間違えたときは、画面の[戻る]ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。

- 1.リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。
しばらくすると[ライセンス条項をお読みください]が表示されます。
2.内容を確認し問題なければ[ライセンス条項に同意します]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。
[ありがとうございます]と表示されます。
3.[開始]ボタンをクリックします。
[ユーザは最初にログインする前にパスワードを変更しなければなりません]と表示されます。
4.[OK]ボタンをクリックし、「新しいパスワードおよびパスワードの確認入力」を入力します。
[SystemInstaller 構成マネージャ] が起動します。
5.[SystemInstaller 構成マネージャ] から必要となるコンポーネントをインストールします。[コンピュータ名とAdministrator のパスワード]が表示されます。詳細については、「ソフトウェアガイドの[SystemInstaller]によるセットアップ」をご参照ください。
6.使用する環境に合わせて設定を行います。
7.必要に応じて、残りパーティションを設定します。

Windows Server 2003 R2編

■ HDDレスサーバブレードの場合

- 1.サーバブレードの電源ON後、Windows Server 2003 R2 にログインします。
[サーバの役割管理]、および[セットアップ後のセキュリティ更新]画面が表示されます。
2.使用する環境に合わせて設定を行います。

■ 管理サーバブレード(オプション品)の場合

… 補足 これ以降、操作を間違えたときは、画面の[戻る]ボタンをクリックします。すると、一つ前の手順の画面に戻ります。該当する操作番号の操作手順に従って操作を進めてください。

- 1.リモートコンソールで、該当サーバブレードに接続します。
しばらくして[Windows セットアップ ウィザードの開始]が表示されます。
2.[次へ]ボタンをクリックします。
[ライセンス契約]が表示されます。
3.内容を確認し問題なければ、[同意します]をチェックし[次へ]ボタンをクリックします。[ソフトウェアの個人用設定]が表示されます。

… 補足 これ以降の設定作業の途中で[セキュリティの警告ードライバのインストール]画面、または[ソフトウェアのインストール]画面、[ハードウェアのインストール]画面が表示される場合があります。[はい]ボタンを選択してインストールを続行してください。デフォルトでは[いいえ]ボタンが選択されているため、必ず[はい]を選択し直すよう注意してください。[いいえ]を選択すると、正しいドライバが適用されません。

- 4.[ソフトウェアの個人用設定]が表示されます。
入力後[Enter]キーを押します。
5.名前を入力します。必要に応じて組織名を入力します。
[次へ]ボタンをクリックします。
[コンピュータ名とAdministrator のパスワード]が表示されます。
6.コンピュータ名を入力します。必要に応じてAdministrator のパスワードを入力します。[次へ]ボタンをクリックします。
数分間設定が行われたあと、[ネットワークの設定]が表示されます。
コンピュータ名は、すでに入力されています。必要に応じて変更を行ってください。
コンピュータ名、Administrator のパスワードは初期設定完了後でも変更できます。
設定したパスワードを忘れてしまうと、次の立ち上げからWindows Server 2003 R2にログインできなくなります。その場合、Windows Server 2003 R2を再インストールする必要があります。
7.[ネットワークの設定]画面で[標準設定]か[カスタム設定]のどちらかをチェックして[次へ]ボタンをクリックします。
[標準設定]を選んだ場合は手順 9 へ進みます。
8.[ネットワークコンポーネント]が表示されますので、必要となるコンポーネントをインストールし[次へ]ボタンをクリックします。
9.[ワークグループまたはドメイン名]が表示されます。使用するサーバ環境に合わせて選択し、[次へ]ボタンをクリックします。
10.以降、インストール処理が行われます。
システム装置が立ち上げ直される。
11.システム装置立ち上げ後、Windows Server 2003 R2にログインします。

… 補足 デスクトップが表示されるまで、「個人用設定」ダイアログが表示される場合があります。設定が終わるまでしばらくお待ちください。

- 12.[SystemInstaller 構成マネージャ]、[サーバの役割管理]、および[セットアップ後のセキュリティ更新]画面が表示されます。
13.使用する環境に合わせて設定します。
14.必要に応じて、残りパーティションを設定します。

全ての作業が完了しましたら、リモートコンソールアプリケーションを終了してください。

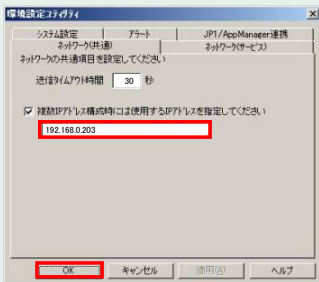
6 JP1/SC/Agentの設定

JP1/SC/Agentの設定

… 補足 本ガイド以外のマニュアルあるいは実際の画面では「ブレードサーバシステム」を「サーバシャーシ」、あるいは「サーバブレード」を「サーバモジュール」と表記している場合がありますが、それは読み替えて下さい。

リモートコンソールアプリケーションを使用し、各サーバブレードのWindowsシステムにて以下の操作で出荷時にインストール済みのJP1/SC/Agentの設定を確認および変更をします。
以下で説明するインストール作業は必ず管理者権限のあるユーザで行ってください。

- 1.各サーバブレードWindowsで、[スタート]から、[すべてのプログラム(P)]ー[ServerConductor]ー[Blade Server Manager]ー[環境設定ユーティリティ]を起動し、[エージェントサービス]タブの、[登録/削除]をクリックします。
2.[接続先マネージャサービス(IPアドレス/ホスト名)]に管理用PCまたはサーバのIPアドレスを入力し、[リストに追加]をクリックしてから[OK]をクリックします。
3.[エージェントサービス]タブの[詳細設定]をクリックします。
4.[複数IPアドレス構成時には使用するIPアドレスを指定してください]にチェック[レ]をつけます。
サーバブレードで管理LANに使用するIPアドレス(例では192.168.0.203)を入力します。
[OK]をクリックします。



- 5.[環境設定ユーティリティ]画面に戻りますので、[OK]をクリックします。

- 6.[サービスの再起動]画面が表示されますので、[OK]をクリックします。以上で、JP1/SC/Agentのセットアップは完了です。
7.その他のサーバブレードについても、JP1/SC/Agentをセットアップしてください。

7 JP1/SC/BSMのセットアップ

JP1/SC/BSMのセットアップ作業手順

… 補足 本ガイド以外のマニュアルあるいは実際の画面では「ブレードサーバシステム」を「サーバシャーシ」、あるいは「サーバブレード」を「サーバモジュール」と表記している場合がありますが、それは読み替えて下さい。

① 用意するもの

サーバ管理ソフトウェア(JP1/ServerConductor/Blade Server Manager [JP1/SC/BSM])のCD

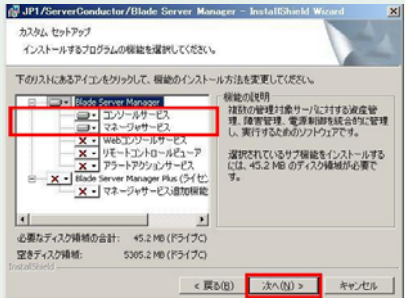
② Windowsファイアウォール有効時のOS設定変更

JP1/SC/BSMおよびJP1/SC/Agentの動作するWindows上でWindowsファイアウォールが有効になっていると、管理用PCまたはサーバと管理対象サーバ(サーバブレード)間の通信ができず、インストール設定に失敗します。ファイアウォールを有効にしている場合は、JP1/ServerConductorプログラムをファイアウォールの例外に登録してください。登録方法はJP1/SC/BSMマニュアル(3020-3-L52)の3.6.2節および各プロダクトのソフトウェア添付資料ノリリスノートを参照ください。

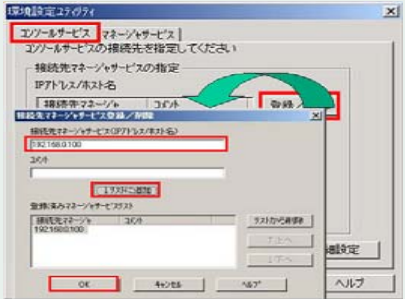
③ JP1/SC/BSMのインストール

管理用PCまたはサーバに、JP1/SC/BSMのインストールCDをセットし、CD内の「YDisk1¥setup.exe」を実行して、インストーラを起動します。以降は画面の指示に従ってインストールを進めてください。下記にインストール設定を進める上での注意事項を示します。

- 1.カスタムセットアップでのインストールするプログラム機能の選択
・管理用PCまたはサーバとしてインストールする場合は「コンソールサービス」「マネージャサービス」を選択します。



- 2.環境設定ユーティリティの設定
・[コンソールサービス]タブで接続先マネージャサービス(管理サーバ)のIPアドレス(例では192.168.0.100)を入力し、[リストに追加]ボタンを押下して、登録済みマネージャサービスリストの接続先マネージャに追加します。

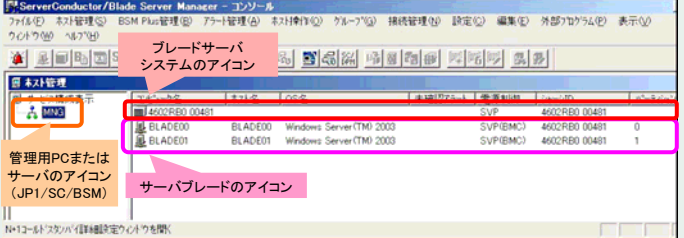


- ・[マネージャサービス]タブでアドミニストレータのパスワードを設定します。

④ JP1/SC/BSMの起動

□ コンソールサービスの起動

- 1.管理用PCまたはサーバの[スタート]から[すべてのプログラム(P)]ー[ServerConductor]ー[Blade Server Manager]ー[コンソールサービス]を起動します。
2.③-2で設定したアドミニストレータのパスワードを入力して次の画面に進みます。
3.[ServerConductor /Blade Server Manager —コンソール]画面(以下JP1/SC/BSMコンソール画面)が表示されます。[ホスト管理]ウィンドウには、管理用PCまたはサーバ(JP1/SC/BSM)、およびJP1/SC/BSMで管理できるブレードサーバシステム、サーバブレードが表示されます。



図のようにアイコンが表示される場合は、これで完了です。アイコンが表示されない場合は、次の手順にお進みください。

… 補足 ブレードサーバシステムおよびサーバブレードのアイコンが濃い色で表示されている場合は、当該装置の電源がONであることを表します。また、アイコンが薄いグレー色で表示されている場合は、当該装置の電源がOFF、またはJP1/SC/BSMと通信できない状態であることを表します。

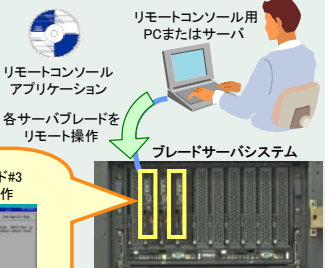
A B C サーバブレードのWindowsセットアップ

BladeSymphony SPは、各サーバブレードのコンソールとして「リモートコンソールアプリケーション」を使用します。リモートコンソールは、各サーバブレードのディスプレイ表示やキーボード/マウス操作、電源ON/OFF操作、BIOS設定、OSインストールなどを遠隔地から実行することができます。
なお、リモートコンソールの詳細な操作方法については、製品添付のリモートコンソールアプリケーション CDに格納されている「リモートコンソールアプリケーションユーザーズガイド」を参照ください。

… 補足 リモートコンソールは、描画速度が比較的低速です。サーバブレードのWindows起動後は、「リモートデスクトップ接続」等をご利用いただいた方が高速です。

<リモートコンソールの使用イメージ>

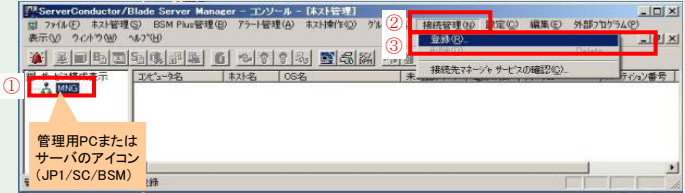
各サーバブレードのコンソール画面表示
キーボード/マウス操作
電源ON/OFF操作
OSインストールなどをリモートから操作可能



各サーバブレードのWindowsセットアップについて

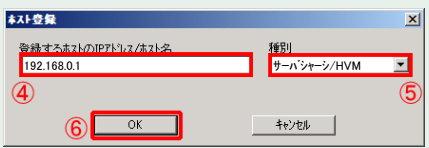
以下の手順は、工場でWindowsをインストールするサービスをご購入頂き、工場設定値を何もご指定いただいていない場合の、Windowsセットアップ手順を記載しています。お客様があらかじめ工場設定値をご指定いただいている場合は、以下の手順で表示されない、あるいは表示されても入力済みとなっているものがあります。また、お客様ご自身でWindowsをインストール、セットアップする場合は、製品添付の「BladeSymphony BS320 ソフトウェアガイド」の、「Windows Server 2008 のセットアップ」または、「Windows Server 2003 R2のセットアップ」をご参照ください。

4. JP1/SC/BSMコンソール画面の[ホスト管理]ウィンドウに、**ブレードサーバシステム**のアイコンが表示されない場合は、以下の操作を行います。
- ① [ホスト管理]ウィンドウで、管理用PCまたはサーバのアイコンをクリックします。
 - ② [接続管理(N)]をクリックします
 - ③ [登録(R)]をクリックします。

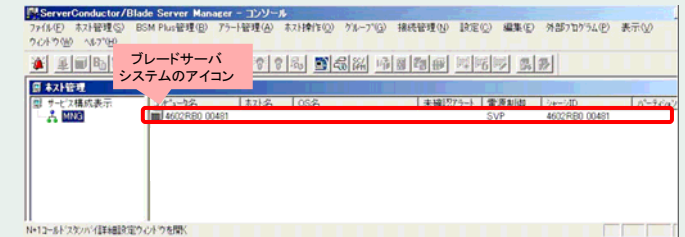


[ホスト登録]画面が表示されます。

- ④[登録するホストのIPアドレス/ホスト名]欄に、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールのIPアドレス(例では192.168.0.1)を入力します。
- ⑤[種別]から、[サーバシャーシ/HVM]を選択します。
- ⑥[OK]をクリックします。

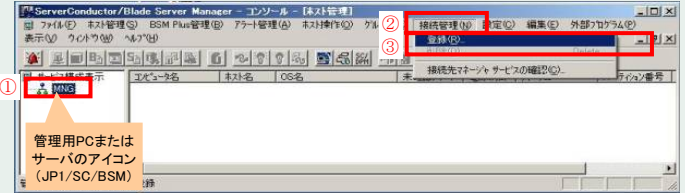


[ホスト管理]ウィンドウに、ブレードサーバシステムのアイコンが表示されます。



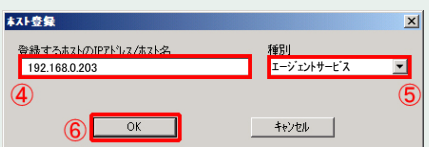
- …
補足
- 本操作を行ってもブレードサーバシステムのアイコンが表示されない場合は、以下を確認してください。
- (a)管理用PCまたはサーバのコマンドプロンプトからブレードサーバシステムのマネジメントモジュールに対してPingコマンドを実行し、管理LANが正しく接続されているか確認してください。
 - (b)マネジメントモジュールのIPアドレスは、マネジメントモジュールの「Blade Server Manager連携設定」画面で確認してください。
 - (c)マネジメントモジュール側で、管理用PCまたはサーバが正しく登録されているか、「Blade Server Manager連携設定」画面で確認してください。

5. JP1/SC/BSMコンソール画面の[ホスト管理]ウィンドウに、**サーバブレード**のアイコンが表示されない場合は、以下の操作を行います。
- ① [ホスト管理]ウィンドウで、管理用PCまたはサーバのアイコンをクリックします。
 - ② [接続管理(N)]をクリックします。
 - ③ [登録(R)]をクリックします。

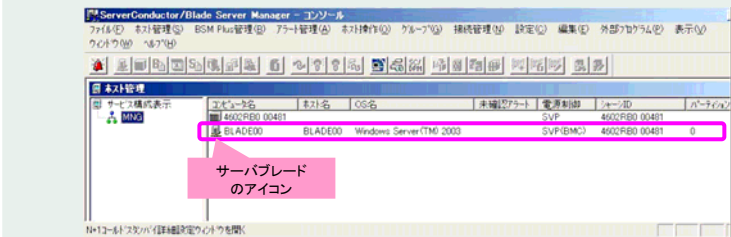


[ホスト登録]画面が表示されます。

- ④[登録するホストのIPアドレス/ホスト名]欄に、アイコンを表示させたいサーバブレードのIPアドレス(例では192.168.0.203)を入力します。
- ⑤[種別]から、[エージェントサービス]を選択します。
- ⑥[OK]をクリックします。



[ホスト管理]ウィンドウに、サーバブレードのアイコンが表示されます。



これでセットアップは完了です。各機能の使い方は「JP1/SC/BSM管理者ガイド」をご参照ください。

- …
補足
- サーバブレードのアイコンが表示されない場合は、以下を確認してください。
- (a)管理用PCまたはサーバの[環境設定ユーティリティ]にて設定を再度確認し、[OK]をクリックしてサービスを再起動してください。
 - (b)管理用PCまたはサーバのコマンドプロンプトから、サーバブレードの管理用LANポートに対してPingコマンドを実行し、管理LANが正しく接続されているか確認してください。
 - (c)サーバブレードを再起動してください。

8 電源の切り方

システム装置の電源切断手順

① 電源を切る

- 1.サーバブレードのシャットダウン
サーバブレードのシャットダウンは以下のどちらかの方法で可能です。
- (a) リモートコンソールアプリケーションを使って、各サーバブレードにリモートログインし、Windowsをシャットダウンしてください。
(シャットダウンの理由が[その他]の場合は、「説明」を記述する必要があります。)
 - (b) JP1/SC/BSMコンソールの[ホスト管理]ウィンドウでシャットダウンするコンピュータを選択して、右クリックのメニュー[電源OFF]を選ぶと確認画面が出ます。[OK]ボタンを押すとサーバブレードのシャットダウンを開始します。
- サーバブレードがシャットダウンすると、サーバブレード前面のPOWERランプがオレンジ色に点灯します。
- OSが正常に作動しなくなったときなど、サーバブレードのシャットダウン処理/パワーダウン処理ができないことがあります。この場合POWER ボタンを4秒以上押し続けると、強制的に電源をOFFにすることができます。なお、強制的に電源を切った場合は、その後のOS・アプリケーションやデータが壊れる可能性があります。



- 2.ブレードサーバシステムのシャットダウン
各サーバブレードのシャットダウンして2分以上経過後、ブレードサーバシステムのマネジメントモジュールにログインします(4章①参照)。メニューから[シャーシ]をクリックし、「電源操作」の[シャットダウン]をクリックします。

- 3.管理・バックアップサーバHA8000のシャットダウン
システム構成パターン<A>の場合、管理・バックアップサーバHA8000のWindowsをシャットダウンしてください。

4. UPSのシャットダウン
UPSが搭載されている場合は、UPSの前面にある「停止ボタン」をブザーが鳴り終わる(約2秒)まで押してください。「AC Input (緑)」、「Bypass (赤)」の点灯を確認してください。その後、さらに「停止ボタン」をブザーが鳴り終わる(約2秒)まで押してください。この時、「Bypass (赤)」が消灯し、「ACInput (緑)」が点灯していることを確認してください。

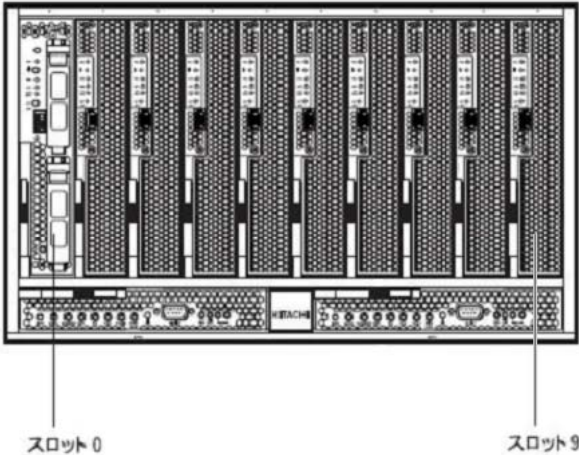


- 5.以上すべての機器の電源をOFFにしました。
ラックキャビネット後面のコンセントボックスのブレーカを以下の順にOFFにしてください。
- ①ブレードサーバシステム用コンセントボックス(200V)
 - ②ストレージ用コンセントボックス(200V)
 - ③100V機器用コンセントボックス

- …
補足
- サーバブレードをシャットダウンする際、マネジメントモジュールではサーバブレードをシャットダウンした後に状態変更の処理を行っています。このため、UPS によるBladeSymphony SPの電源の切断を行う場合には、全サーバブレードをシャットダウンした後、2分以上の時間をおいてからシステム装置の電源を切断してください。

プロダクトシール貼り付けページ

サーバブレードに添付されているプロダクトキーシールを、ブレードサーバシステムに搭載されているスロットNo. に該当する欄に貼り付けてください。
ブレードサーバシステムのスロットNo. は右図のとおりです。



スロット0

スロット1

スロット2

スロット3

スロット4

スロット5

スロット6

スロット7

スロット8

スロット9

BladeSymphony SP出荷時のネットワーク接続について

BladeSymphony SP出荷時ネットワーク構成

BladeSymphony SPは以下のネットワーク構成で接続・設定されています。

ネットワーク構成は用途によりセグメントが分かれていますので、使用目的にあわせて適切なポートをご使用ください。

※業務LAN接続時の注意事項

業務LANとして使用できるポートは2台の内蔵LANスイッチのポート番号2にそれぞれ割り当てられています。

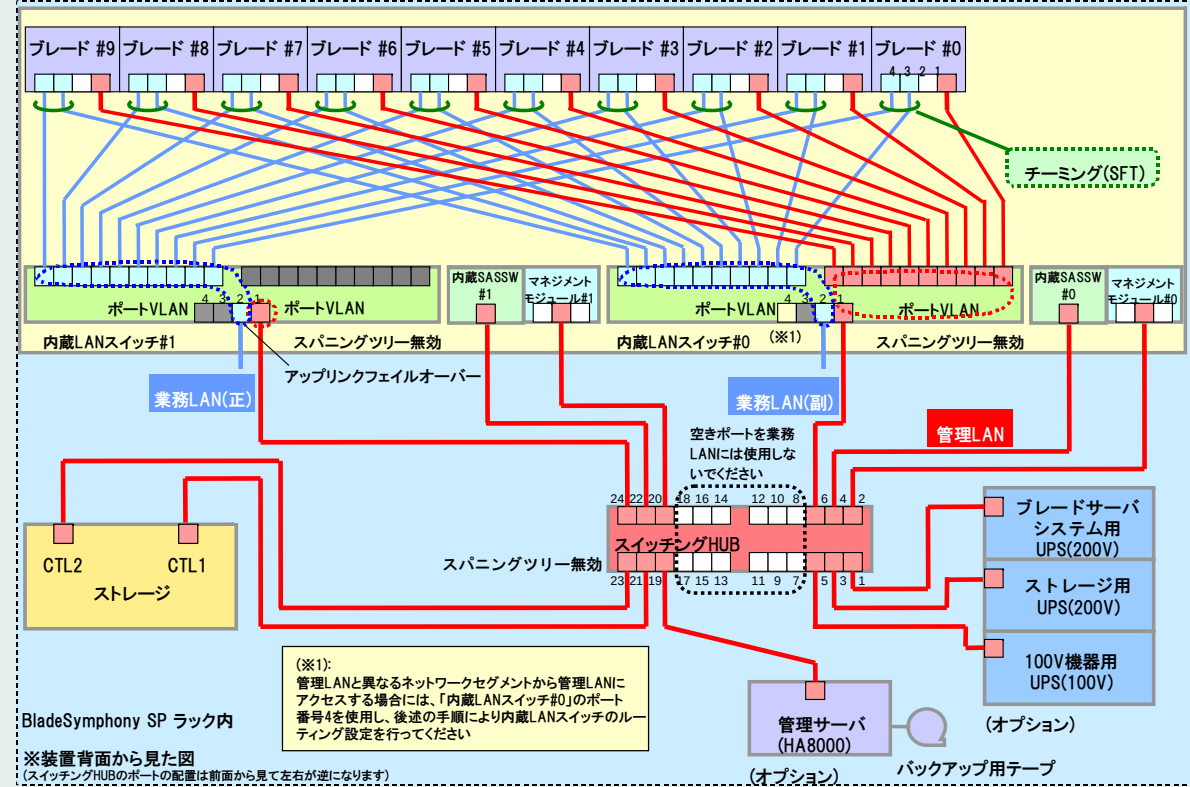
業務LANを1系統のみでご使用される場合には内蔵LANスイッチ#1(左側)のポート番号2をご使用ください。

内蔵LANスイッチのポート番号3と4はシャットダウン設定されていますので出荷時構成ではご使用できません。

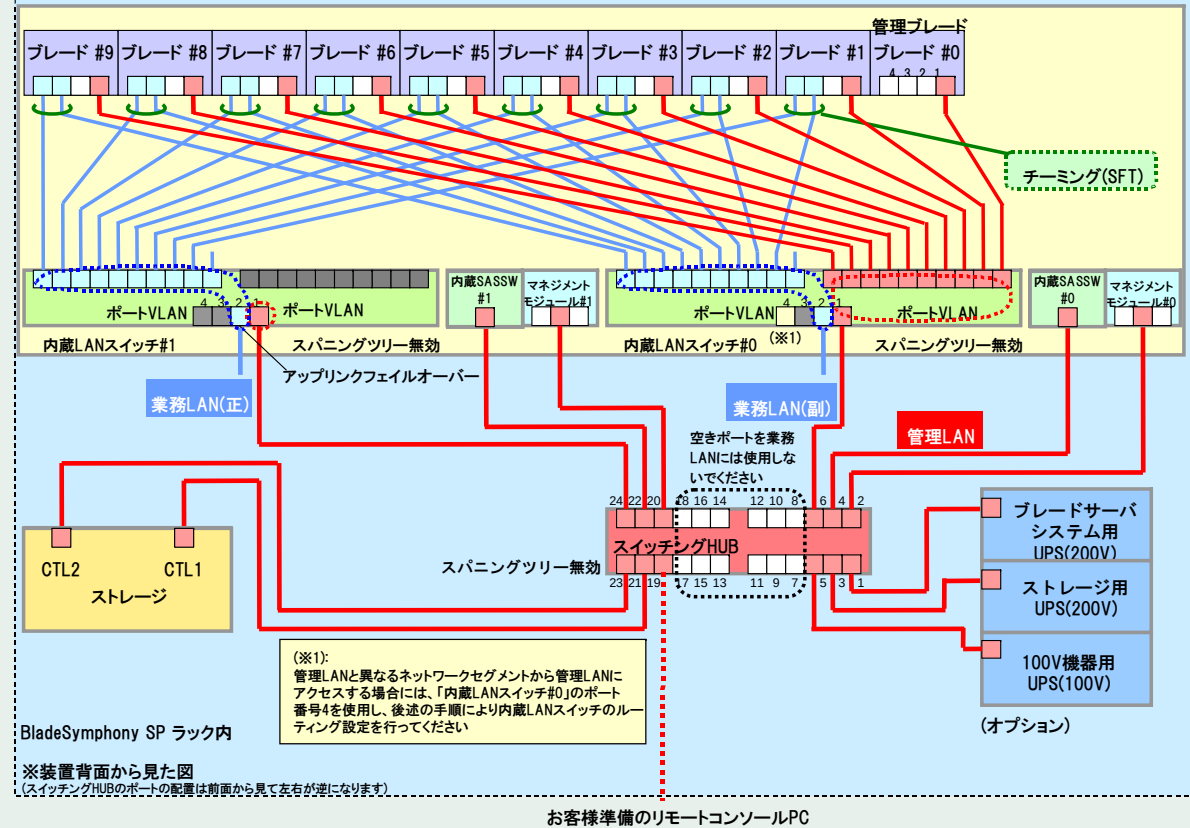
また、管理LAN用のスイッチングHUBを業務LANのHUBとして使用しないでください。



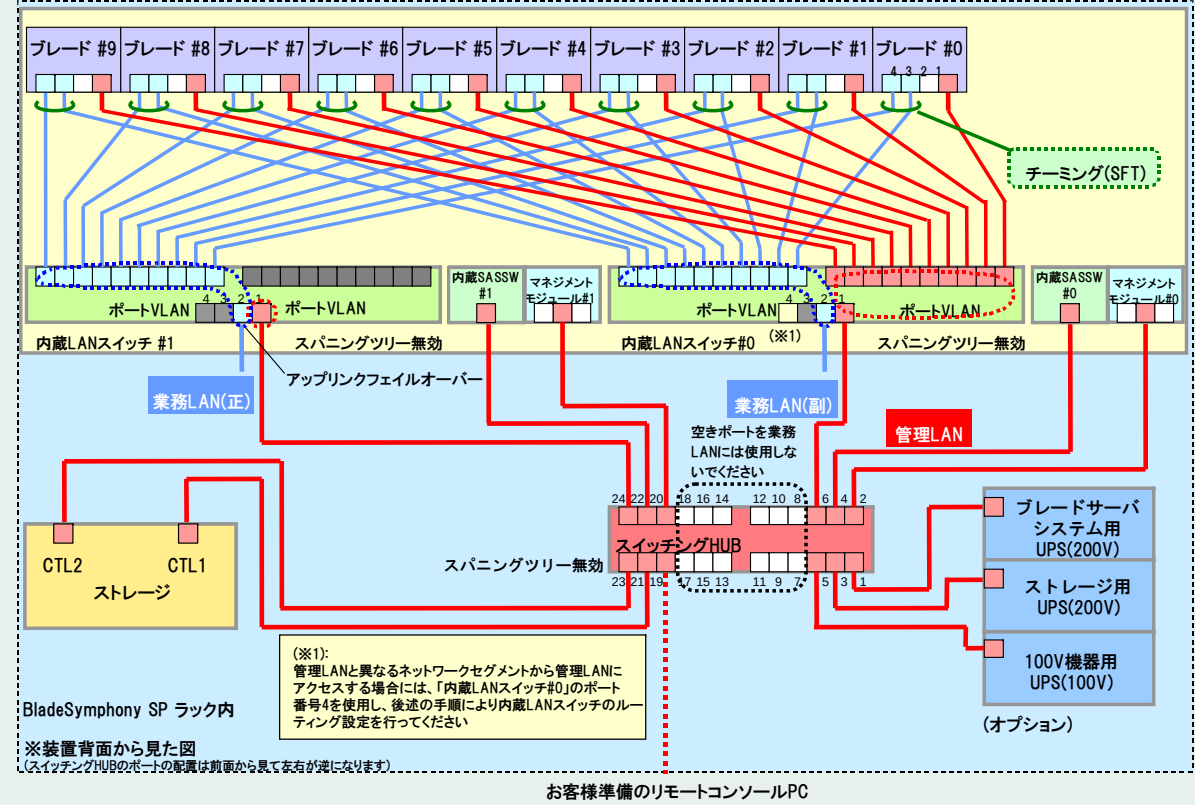
<システム構成パターン<A>の場合>



<システム構成パターンの場合>



<システム構成パターン<C>の場合>



<管理LANと異なるネットワークセグメントから管理LANにアクセスする場合>

(内蔵LANスイッチ#0でルーティング可能とするため、出荷時設定で、管理LANに接続された各装置にデフォルトゲートウェイを設定しています。)

BladeSymphony SPの管理LANと異なるネットワークセグメントのクライアントPCから、管理LANにアクセスする場合、「内蔵LANスイッチ#0」のポート番号4を使用し、以下の手順で内蔵LANスイッチ#0およびクライアントPCのルーティング設定を行ってください。

【ルーティング設定方法】
(以下の例は内蔵LANスイッチ#0ポート番号1のIPアドレスが192.168.0.60の場合)

<内蔵LANスイッチ#0の設定>

- ①内蔵LANスイッチ#0ポート番号4に割り当ててIPアドレスを決定します。
IPアドレス : xxx.xxx.xxx.xxx
サブネットマスク : 255.255.255.0
- ②管理サーバまたは、リモートコンソールPCまたはサーバで内蔵LANスイッチ#0にtelnetでログインします。(初期導入時はユーザIDは"operator"、パスワードなし)
- ③ログイン後、以下のコマンドを入力します。

```
> enable
# configure
(config)# interface vlan 400
(config-if)# ip address xxx.xxx.xxx.xxx 255.255.255.0
! (config-if)# exit
! (config)# ip route xxx.xxx.xxx.0 255.255.255.0 192.168.0.60 vlan 4094
! (config-if)# exit
! (config)# interface gigabitethernet 0/4
! (config-if)# no shutdown
! (config-if)# exit
! (config)# save
! (config-if)# exit
! (config)# save
```

<クライアントPCの設定>

- ①コマンドプロンプトより以下を実行

```
C:\> route -p add 192.168.0.0 mask 255.255.255.0 xxx.xxx.xxx.xxx
C:\>
```

【出荷時の状態に戻すための設定方法】
(以下の例は内蔵LANスイッチ#0ポート番号1のIPアドレスが192.168.0.60の場合)

<内蔵LANスイッチ#0の設定>

- ①管理サーバまたは、リモートコンソールPCまたはサーバで内蔵LANスイッチ#0にtelnetでログインします。(初期導入時はユーザIDは"operator"、パスワードなし)
- ②ログイン後、以下のコマンドを入力します。

```
> enable
# configure
(config)# interface gigabitethernet 0/4
(config-if)# shutdown
! (config)# no ip route xxx.xxx.xxx.0 255.255.255.0 192.168.0.60 vlan 4094
! (config-if)# exit
! (config)# interface vlan 400
! (config-if)# no ip address xxx.xxx.xxx.xxx
! (config-if)# exit
! (config)# save
! (config-if)# exit
! (config)# save
```

<クライアントPCの設定>

- ①コマンドプロンプトより以下を実行

```
C:\> route delete 192.168.0.0
C:\>
```

IPアドレス初期設定値一覧

以下にBladeSymphony SP出荷時の各機器のIPアドレス初期設定値を示します。

装置	LANポート	IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
ブレード#0~9 (注1)	1	192.168.[*].200~209	255.255.255.0	192.168.[*].60
	2	未設定	未設定	未設定
	3/4	未設定(注2)	未設定(注2)	未設定(注2)
ブレード#0~9 サーバブレード管理用IPアドレス (注3)	BMC	192.168.[*].20~29	(注4)	(注4)
管理LANスイッチ#0	MGMT	192.168.[*].1	255.255.255.0	192.168.[*].60
内蔵LANスイッチ#1	1	192.168.[*].60	255.255.255.0	未設定
内蔵SASSW#0	1	192.168.[*].61		
内蔵SASSW#1	1	192.168.[*].50		
内蔵SASSW#2	1	192.168.[*].51		
ストレージ	コントローラ1	192.168.[*].16		
	コントローラ2	192.168.[*].17		
ブレードサーバシステム用UPS(200V)	1	192.168.[*].90		
ストレージ用UPS(200V)	1	192.168.[*].91		
100V機器用UPS(100V)	1	192.168.[*].92		
管理・バックアップサーバ(BA8000)	1	192.168.[*].100		

■ 管理LAN ■ 業務LAN

- 左記アドレス以外に「192.168.253.0/24」のネットワークセグメントは、装置内部で予約済みとなっています。
- 管理LANのデフォルトゲートウェイは、内蔵LANスイッチ#0の管理ポート(ポート番号1)のIPアドレスが設定されています。
- 本管理LANと同一セグメントのお客様ネットワーク環境を接続する場合、BladeSymphony SPの各機器のIPアドレス、デフォルトゲートウェイの変更が必要となる場合がありますのでご注意ください。
- (注1): ブレード#0が管理サーバブレードの場合、ブレード#0のIPアドレスは「192.168.[*].100」となります。
- (注2): お客様の業務LANネットワーク環境に合わせて設定を行ってください。
- (注3): リモートコンソール接続に使用するIPアドレス。
- (注4): マネジメントモジュールの設定値と同じになります。

BladeSymphony SP出荷時のストレージ構成について

BladeSymphony SP出荷時ストレージ構成

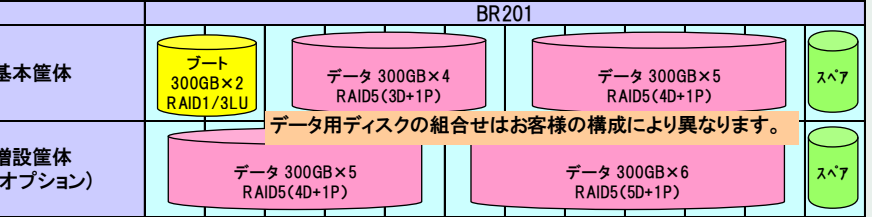
BladeSymphony SPのストレージ構成は出荷時に設定済みとなっています。
出荷時構成から容量やLU数を変更する場合には、ストレージ装置のマニュアルを参照して設定変更を行ってください。

<HDDの搭載について>

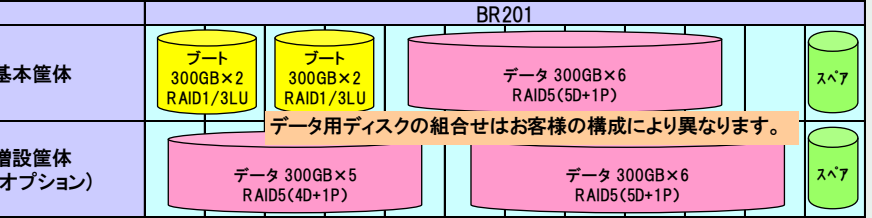
- ストレージ装置には基本筐体と増設筐体(オプション)があり、最大で24台のHDDを搭載することができます。
- ・ブート用ディスクはRAID1構成で、1つのRAIDグループあたり3つのLU(ロジカルユニット)が設定されています。
搭載されているブレード数により、ブート用ディスクの必要数が異なります。
 - ・データ用ディスクはRAID5構成で、お客様で事前にご指定されたLUが設定されています。
 - ・スベア用ディスクはストレージ筐体あたり1台搭載されています。

【HDD搭載の例】

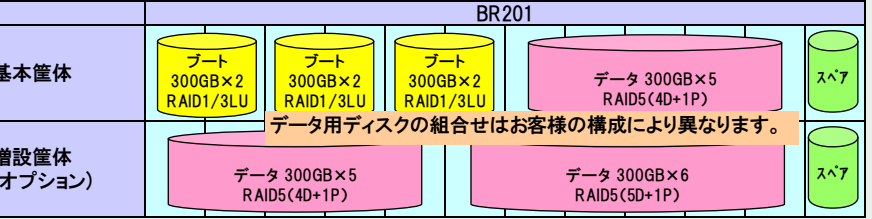
①ブレード数:1～3ブレード



②ブレード数:4～6ブレード



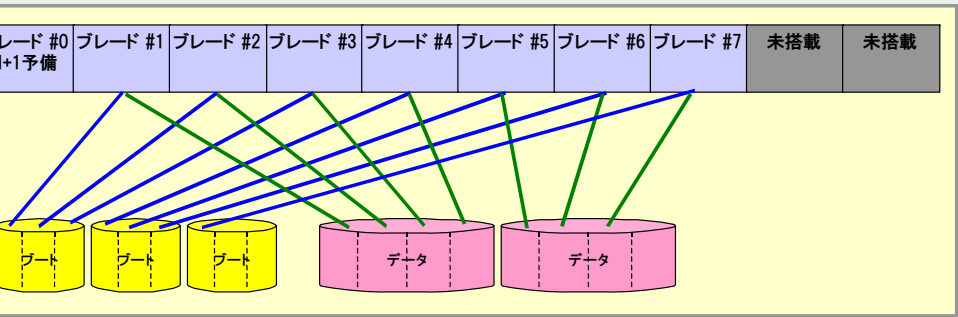
③ブレード数:7～9ブレード



<LUマッピングについて>

ブートディスクはブート用のRAIDグループを3つのLUに分割し、搭載ブレードに対してLUマッピングを行っています。
管理サーバブレードおよびN+1予備ブレードに対しては、ブートディスクのLUマッピングは行いません。
またブレードが搭載されていないスロットに対してもLUのマッピングは行っていない。
データディスクのLUマッピング指定はお客様指定となります。

【LUマッピングの例】

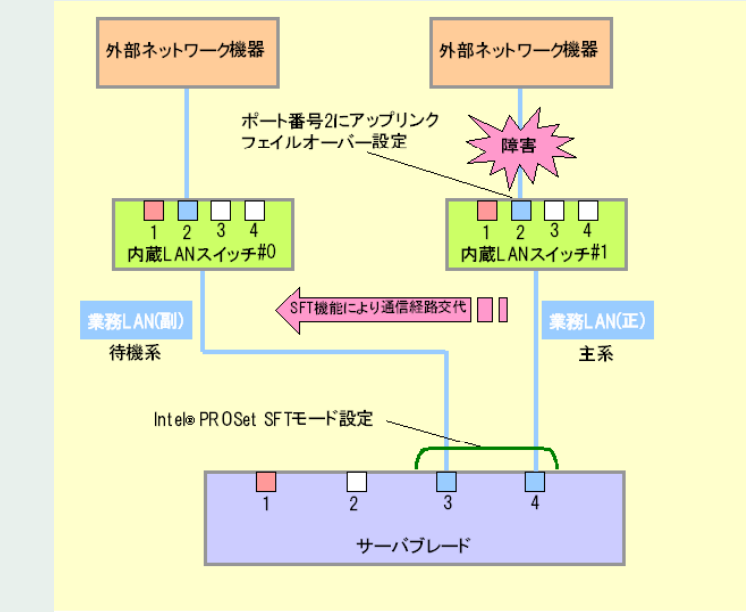


アップリンクフェイルオーバー機能について

アップリンクフェイルオーバー機能概要

アップリンクフェイルオーバー機能はサーバブレードのIntel® PROSetで提供されるチーミング機能のSFT (Switch Fault Tolerance) モードと併用することで、内蔵LANスイッチや外部のネットワーク機器の障害により通信経路の交代を行う二重化機能を実現しています。

以下にBladeSymphony SPで出荷時に設定しているアップリンクフェイルオーバー機能の動作概要を示します。



...

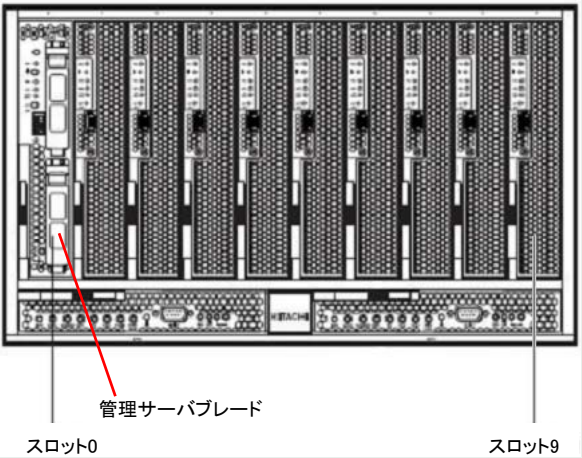
補足

- 本機能が対象とする外部ネットワーク機器障害は、物理層でリンクダウンとなる障害です。
- 本機能は、対象のポートに対してshutdown コマンドの投入や主系のLAN スイッチモジュールもしくは、主系のLAN スイッチモジュールと接続している外部ネットワーク機器を電源OFF、再起動等の操作でリンクダウンされた場合も、障害とみなしてサーバブレードとの接続を閉塞させるため、通信経路が交代します。
- チーミング機能の設定で使用する仮想MACアドレスは、添付のN+1 Teaming Kitを使用しています。本設定の詳細および設定の変更を行う場合には「N+1 Teaming Kit取扱説明書」をご覧ください。

BladeSymphony SP管理サーバブレードについて

BladeSymphony SP管理サーバブレード搭載位置

BladeSymphony SPの管理サーバブレード(オプション)をご購入いただいた場合、管理サーバブレードはスロット0に搭載されます。



登録商標・商標について

Intel、Pentiumは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Hyper-V、Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

著作権について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。
このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。
Copyright© Hitachi, Ltd. 2009, All rights reserved.